

新緑の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

非日常だと感じていたコロナ禍の生活が、一年以上も続くと、今では日常の生活であるかのようにマスク、消毒、換気、食事中はお喋りしない等が、当たり前前に感じられることが、良いのか悪いのか……。

先日、子どもがテレビの街頭インタビューで、「僕たちは、いろんなことを我慢して頑張っているのに、我慢していない大人がいるのでずるい！」と大人の軽率な態度を指摘している場面がありました。全くだ！子どもはしっかり大人を見ているのです。大人も守るべきことはしっかり守って早く終息に向かって欲しいものです。

私たちは、毎日あなた達を守りたいから……とルールを一生懸命伝えていきますから、子ども達は、本当に頑張って守ろうとしてくれていきます。

そんな素直な子ども達は、いろんなことを我慢しながらも、放課後は楽しく遊びに没頭している姿が見られるとホッと笑顔になります。

ある日、事務仕事をしていた私に一年生の男の子が「先生は一番偉い先生ですか？」と聞いてきました。そんなに偉くはないけれど、責任者ではあるかな……と思いつながら「何かありましたか？」と聞くと、「守って欲しいものがあります」「先生お願いです！守って下さい！」と迫ってきました。

何のことかさっぱりわからないので、「私は何を守ればいいのですか？」と聞くと、とにかく来て欲しいと連れていかれたところが、グラウンドにある一本の木でした。

「これです！」と言われても、まだわからず、「何を守ったらいいの？」と聞くと、木の皮をぺろんとめくって何かの卵らしきものが張り付いているのを見せてくれました。

「絶対に誰にも内緒です！」小さい声で教えてくれました。彼らが言うには、これは「テントウ虫の卵」だそうです。よく見つけたものです。誰かにいたずらされないように、又他の虫たちが食べたりしないように、僕たちは学校に行かなければいけないので、私にずっと監視して守って欲しいとの依頼でした(笑)なんて可愛い依頼でした。う！でも、ずっと見ておくのは難しいので、安全なところに避難させることを提案しました。結局虫かごに入れてお家に持って帰ることにりましたが、毎日卵の様子を知らせに来てくれます。楽しみです！

令和三年 五・六月号のおたよりに添えて

社会福祉法人 積慶園 京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子